

第1回寒河江市学校再編に関する外部有識者会議議事録

日時：令和5年7月3日（月）午前10時から正午

場所：寒河江市立図書館 2階 視聴覚室

出席者：大桃委員、佐藤委員、鈴木委員

増田委員（オンライン）、三浦委員（オンライン）

欠席者：なし

事務局：佐藤教育長、今野学校教育課長、千葉室長補佐、芦野係長

（事務局 千葉室長補佐）

会議に先立ちまして、傍聴される皆さまにお願いがございます。事前にお配りしております傍聴要領をご確認くださいませようをお願いいたします。この会議は対面とオンラインのハイブリッド開催となっております。本日は、東北大学の増田教授、東北芸術工科大学の三浦教授がオンラインでご参加しております。また、議事録作成のため、録音機材を設置し、録音しておりますので、会議中にご発言等されないようにご理解とご協力のほどよろしくをお願いいたします。資料は、市ホームページで公開しておりますので、そちらをご確認いただければと思います。

委員の皆さまへ配布資料の確認です。次第、資料1 寒河江市学校再編に関する外部有識者会議設置要綱、資料2 寒河江市学校再編に関する外部有識者会議傍聴要領、資料3-1 学校再編について、資料3-2 寒河江市学校施設整備計画（案）へのパブリックコメントの結果、資料4 寒河江市学校施設整備計画でございます。

定刻となりましたので、第1回寒河江市学校再編に関する外部有識者会議を開会いたします。次第に沿って進めてまいります。最初に外部有識者会議の設置について、事務局より説明いたします。

（事務局 今野学校教育課長）

学校教育課長の今野でございます。会議設置について説明いたします。お配りしております資料1 寒河江市学校再編に関する外部有識者会議設置要綱をご覧ください。昨年3月に、資料4としてお配りしております「寒河江市学校施設整備計画」を策定し、計画について説明会等を開催してきました。計画策定前のパブリックコメントや説明会の中で、計画に対して様々なご意見を頂戴しております。頂戴したご意見を踏まえ計画の見直しをするために、この外部有識者会議を設置して、令和5年12月に改定版を策定できるように進めていきたいと考えております。外部有識者会議は、5名で構成しております。教育、まちづく

り、環境など幅広い見地からご助言をいただくため、各分野において専門的な知識を持たれている方をお願いしております。また、学校再編に関する議論について、多くの方に知っていただくため、会議は公開で実施しております。傍聴いただくにあたり資料2としてお配りしております傍聴要領を制定しております。配布資料については、市ホームページで事前に公開しておりますので、傍聴されている皆様におかれましては、市ホームページでご確認いただければと思います。また、議事録に関しても準備が出来次第、市ホームページで公開する予定でございます。以上でございます。

（事務局 千葉室長補佐）

続きまして、委嘱状の交付につきましては、あらかじめ皆さまの机の上の封筒の中にお配りしてありますので、ご確認のほどよろしくお願いいたします。

次に、寒河江市教育委員会、佐藤教育長よりご挨拶を申し上げます。

（佐藤教育長）

おはようございます。教育長を務めております佐藤志津男と申します。よろしくお願いいたします。この度は、寒河江市学校再編に関する外部有識者会議の委員をお引き受けいただきありがとうございます。事務局より説明がありましたように昨年3月に策定した「寒河江市学校施設整備計画」については、昨年度、説明会等を開催しましたが、本日の資料にもありますように様々なご意見をいただいております。また、その中で学校を考えるうえで、教育のみならず、まちづくりや地域振興の視点も取り入れるべきではないかのご意見もいただきました。より良い施設整備計画を作るために、市民のみなさまのご意見とともに教育、まちづくり、環境等の視点による助言も必要と考え、このような外部有識者会議を開催することとしました。現在、教育委員会としましては、これまでいただいた保護者の方々、市民のみなさまのご意見を踏まえ、寒河江市学校施設整備計画の一部見直しを含め検討を行っているところです。今後、有識者会議での議論やご意見も参考にさせていただきながら、子どもたちや教職員にとって、よりよい学習環境の構築、これから先の児童生徒数の動態、必要経費等も踏まえながら、総合的に判断し、寒河江市にあった学校施設整備計画の作成を進めてまいりたいと思います。委員のみなさまにおかれましては、それぞれの専門的な立場からご意見を出していただければと思います。

（事務局 千葉室長補佐）

ありがとうございます。委員のみなさまより自己紹介をお願いいたします。名簿の順番で、東北文教大学 副学長の大桃伸一（おおもも しんいち）様よろし

くお願いいたします。

（大桃委員）

東北文教大学の大桃です。専門は、教育学、幼児教育学です。よろしくお願いいたします。

（事務局 千葉室長補佐）

ありがとうございます。続きまして、山形大学 工学部 建築・デザイン学科教授の佐藤慎也（さとう しんや）様よろしくお願いいたします。

（佐藤委員）

おはようございます。佐藤慎也です。私は、子ども環境、建築計画、都市計画を専門にしております。よろしくお願いいたします。

（事務局 千葉室長補佐）

ありがとうございます。続きまして、東北大学大学院 経済学研究科 教授の増田聡（ますだ さとる）様よろしくお願いいたします。

（増田委員）

増田です。おはようございます。東北大学で地域計画を教えております。寒河江市とのお付き合いは、数年前から公共施設全体のマネジメントの委員を何年かやっておりまして、まちなかの施設、学校、廃校になった学校施設をどう考えるのかを検討していたことがありました。今回は、学校に特化した検討会ということですので、みなさんと一緒に議論できればと思います。よろしくお願いいたします。

（事務局 千葉室長補佐）

ありがとうございます。続きまして、東北芸術工科大学 建築・デザイン学科教授の三浦秀一（みうら しゅういち）様よろしくお願いいたします。

（三浦委員）

おはようございます。東北芸術工科大学の三浦と申します。専門は、省エネルギーや再生可能エネルギーをやっております。よろしくお願いいたします。

（事務局 千葉室長補佐）

ありがとうございます。最後に、山形大学大学院 教育実践研究科 准教授の

鈴木貴子（すすき たかこ）様よろしくお願ひいたします。

（鈴木委員）

おはようございます。山形大学大学院教育実践研究科の鈴木貴子と申します。昨年度より山形大学に赴任して、学校力開発分野ということで、学校経営について主に担当しております。山形大学に赴任する前は、寒河江市で中学校の教員を陵南中学校で6年間、陵東中学校で7年間勤めさせていただいて、地域の方にも大変お世話になりました。今回、この委員として参加できることを大変ありがたく思っております。よろしくお願ひいたします。

（事務局 千葉室長補佐）

ありがとうございます。続きまして、本日、出席しております事務局の紹介でございます。

（佐藤教育長）

昨年4月より教育長を務めております佐藤志津男と申します。よろしくお願ひいたします。

（事務局 今野学校教育課長）

学校教育課長の今野と申します。よろしくお願ひいたします。

（事務局 芦野係長）

学校再編整備室の芦野と申します。よろしくお願ひいたします。

（事務局 千葉室長補佐）

学校再編整備室の千葉と申します。よろしくお願ひいたします。

（佐藤教育長）

続きまして、会長選出についてです。事務局にて進行させていただきます。本会議の会長の互選の方法は、いかがいたしましょうか。

（委員）

事務局の原案などあれば、提案していただきたいと思ひます。

（佐藤教育長）

今、委員の方から事務局の案ということがございましたので、事務局から案を

示させていただきたいと思います。

(事務局 今野学校教育課長)

事務局案としましては、会長に大桃委員を推薦いたします。

(佐藤教育長)

ただいま、事務局から提案がありましたが、委員の皆さまいかがでしょうか。

(委員)

はい。

(佐藤教育長)

よろしいでしょうか。委員のみなさまよりご承認いただいたということで、会長に選任されました大桃委員から就任のご挨拶をいただきたいと思います。

(大桃委員)

会長に選出されました大桃でございます。この会議は、さきほど事務局からご説明がありましたように様々な分野の専門家から成り立っております。教育、環境、まちづくりなど様々な視点から積極的に発言していただきながら、学校再編の計画が寒河江市の未来を担う子どもたち、寒河江市にお住いの方々にとってより良い計画となるように少しでもお手伝いできればと思いますので、よろしく願いいたします。

(事務局 千葉室長補佐)

ありがとうございます。それでは、協議に入りたいと思います。対面とオンラインのハイブリッド開催でございますので、席移動等は行わずにこのままとさせていただきます。設置要綱第6条に基づき、会長が議長となっておりますので、大桃委員よろしく願いいたします。

(議長 大桃委員)

それでは、ご指名でございますので、しばらくの間議長を務めさせていただきます。議事に入ります。(1)学校再編について事務局より説明をお願いします。

(事務局 今野学校教育課長)

事務局より資料の順番でご説明申し上げます。資料3-1「学校再編について」をご覧ください。これまでの学校再編に関する取り組みをまとめたものでござ

います。

1. これまでの流れとしまして、令和元年7月に「寒河江市立学校のあり方検討委員会」を立ち上げております。計10回の検討委員会を開催し、令和3年12月に「寒河江市立学校のあり方について」の答申を頂いたところです。答申を踏まえまして、令和4年3月に「寒河江市学校施設整備計画」を策定しました。資料4として「寒河江市学校施設整備計画」の全文を印刷したものをお配りしておりますのであわせてご覧いただければと思います。計画策定後になりますが、より多くの方に計画を知っていただくため、令和4年度には、各地区で説明会等を開催し、保護者の方や地域の方に説明を重ねてきたところでございます。説明会等でいただきましたご意見等につきましては、市のホームページで公開しております。

2. ロードマップについてです。これは現在の計画のロードマップとなっております。寒河江市には、現在小学校が9校、中学校が3校ありますが、現計画では、令和8年に西根小学校と三泉小学校の2校を統合し、新小学校①とし、高松小学校、醍醐小学校、白岩小学校の3校を統合、新小学校②とする計画です。令和10年には、陵東中学校、陵南中学校、陵西中学校の3校を1校に統合し、さらに、令和14年に令和8年に統合しました新小学校①と新小学校②の2つの小学校を再度統合するといった計画となっております。このロードマップに対して保護者の方、地域の方より様々なご意見を頂戴したところです。

2ページになります。3.説明会等でのご意見についてまとめております。おまなご意見としましては、(1)現在の中学校1校案については、1校で資源を集中し、最新の教育環境の下で学ばせたいので賛成。1校にして、他市町からも人が来るような、すごくいい学校を作ってほしい。1校案の大きな学校だといろいろな人と出会いが期待でき、成長できる。1校だと子どもたちに目が行き届かなくなるので、いじめや不登校が多くなりそうなので、2校がいい。1校案では、行事等するとき、人が多くて大変ではないか。2校案だと様々な活動や部活動等で、競い合い、向上心を促すことができるので賛成。などのご意見を頂きました。(2)現在の計画では、小学校が2段階統合となり、令和8年度に3校と2校の統合があり、中学校統合後に小学校が再度統合することについては、小学校の2段階統合は、子ども・親ともに負担が大きい。統合の時期を慎重に考えてほしい等のご意見を頂きました。(3)現在の小学校を統合していく計画については、陵西学区から小学校も中学校もなくなる、学校を残してほしい。地域から学校がなくなると地域が廃れるから、統合には反対。学校がなくなるということは、地域の核がなくなる。子どもの数が少なくなったから統合するだけでなく、まちづくりそのものとして考えていかなければならない。等のご意見を頂いております。(4)その他としまして、あり方検討委員会の会議録の公表について

や情報発信や周知不足について。学校施設整備計画の策定の手順について。中学校については、中学校が1校となった経過についてや統合の時期についてのご意見。小学校については、小規模校の良さ、複式学級の良さ、小学校の統合は1回でいいのではないかと。等のご意見を頂きました。また、スクールバス、保育園や放課後児童クラブ、いじめ、不登校などについてご覧のようなご意見をいただいたところです。

これらのご意見を踏まえ、教育委員会では、大きな点として、3点について検討を進めております。1つ目は中学校1校、2校に関する学校規模について。2つ目は2回統合する負担に関する統合の時期について。3つ目は陵西学区に小学校がなくなることについての3点になります。第2回の会議において検討案を提示できるように進めているところです。

資料変わりまして、資料3-2、「寒河江市学校施設整備計画(案)」へのパブリックコメントの結果についてでございます。現計画を策定したときに寄せられたパブリックコメントの全文を印刷したものをお配りしております。30名の方より50件のご意見を頂戴しております。ご覧いただければと思います。

資料3-1にもどっていただきまして、4. 児童・生徒数の実績及び推計についてです。これは、令和5年4月1日現在の実績で算出したもので、令和6年以降の推計につきましては、在校生は進級する児童・生徒の実績数によるものとし、新入生は、住民基本台帳に基づく児童・生徒数とし、推計したものです。小学校につきましては令和11年度までに、中学校につきましては、令和17年度まで推計しております。その結果、寒河江中部小学校や陵南中学校は、増減しながらも、ほぼ横ばいで推移していきませんが、それ以外の学校については総じて減少傾向となっております。小学校全体でみると、6年後の令和11年度には、323人減少すると推計され、中学校全体でみると、12年後の令和17年度には、243人減少すると推計されます。5ページからは、各小学校の児童数の実績及び推計。7ページは、各中学校の生徒数の実績及び推計の資料となっております。

最後に次のページ、5. 今後の予定についてです。第2回の会議において、学校施設整備計画改定版の(素案)を提示させていただきたいと考えております。第2回の会議において委員の皆さまよりご意見を頂戴し、それらの意見を反映させて、第3回の会議において修正案をお示しできればと考えております。

説明は以上でございます。

(議長 大桃委員)

ありがとうございました。事務局より(1)学校再編について、説明がありましたが、委員のみなさまよりご意見、ご質問等頂戴したいと思っております。いかがで

しょうか。それでは私の方から令和4年3月に出された学校施設整備計画のもとになりました、あり方検討委員会が立ち上げられておりますが、検討委員会のメンバーについて教えてください。

（事務局 今野学校教育課長）

メンバーについてですが、学識経験者として真木先生、安藤先生、地域住民代表として町会長連合会より3名、学校代表として市校長会より3名、児童生徒保護者代表として市PTA連合会より3名、幼児保護者代表として3名、公募委員3名、合計17名の委員となっております。

（議長 大桃委員）

ありがとうございます。主に寒河江市にお住いの学校関係者によって検討されて、その答申に基づき、令和4年3月の整備計画が作られ、パブリックコメントや説明会などでいろんなご意見を頂戴したのでこの会議で再検討することですね。他の委員のみなさん、ご質問等ございますか。現在の計画では小学校は2段階統合となっております。令和8年度に3校と2校、その後に再統合との計画ですが、どうして2段階にしたのか。複式学級の早期解消が大きな原因かと思いますが、それ以外にどんな要素があったか教えてください。

（佐藤教育長）

あり方検討委員会の中で、複式学級の早期解消、小学校においてもクラス替えができるような規模、学年で複数の学級となるような規模の学校が望ましいのではないかというご意見がありました。複式学級の早期解消、学年2クラスくらいの規模になるように、2段階での統合という計画を策定したということです。

（議長 大桃委員）

ありがとうございます。鈴木委員いかがでしょうか。現場の先生の経験から、2段階統合は親ともに負担が大きいという意見が出されておりますが、いかがでしょうか。

（鈴木委員）

地域の方、保護者の方の負担という点で想定できることもありますが、佐藤教育長から説明があったように、寒河江市内の中学校でお子さんと関わってくる機会が多かったので、それぞれの寒河江市全体として見たときに地区によっても配慮事項がありました。負担という部分は想定するのですが、お子様の発達の実態にあった形で慎重に進めていく必要があるのかなと思うので、2段階統合

については賛成として本日は参加したところです。

（佐藤委員）

山形大学の佐藤です。地域の再生も含めてやっているのですが、この資料3-2を拝見しました。学校が持つ地域づくりの核としての役割、それに関する心配事、いろんな視点が書かれていて、危惧される内容はその通りだなと思います。そうした時に、寒河江市の宅地開発、地域づくり、いろんなところで努力されてきたところだと思うのですが、国で問題になっているのは、若い女性が東北の地から離れている、また帰ってこられるような環境を作らない限り再生が見えてこないということがありまして、寒河江のポテンシャル、農業に象徴される様々な産業があってそれが魅力的ですし、子育て施策も手厚いということがあって、たまたま大学の関係の方が、寒河江市に引っ越しされて、いい場所だという話をしてくれました。そういう意味で言うと地域に戻ってくる、まちづくりのビジョン、それとセットで語られていくことが地域の人たちにも安心を与えられるのかなと思います。今、仙台市でも鶴ヶ谷団地というところがありますが、昭和40年代に開発されて、高齢化進んでいて大変でしたが、団地の再生で若い人たちはターゲットになって、環境インフラがいいということで、再開発によってまちがよみがえっている。新たな若い人たちが働ける6次産業とかマッチングをしながら地域の人口回復となっていくと、ここに資料3-2の数字は、確定している数値だと思いますが、それ以降の数字に変化が生じるのではないかと思います。国の根幹の農業、自給率が40%しかない。そうした中で、寒河江が果たす役割が大きいのではないかと。地域づくりとセットで語っていくべきではないかと思います。以上です。

（議長 大桃委員）

ありがとうございました。小学校の2段階統合について、増田委員、三浦委員いかがでしょうか。

（増田委員）

東北大学の増田です。2段階統合は、通常のクラス替えと少し大規模になるということと、通学先が変わってしまうことがあって、たぶん低学年と高学年で影響が違わないかだと思います。私は、教育の専門家でないのでわからない部分がありますが、少し子どもたちの発達段階に応じて、どういう対応が必要かをつめていただき、うまくやりながら、2段階でもいけるのではないかと。対応についてご検討いただければと思います。2段階統合とは離れてしましますが、さきほどの資料3-2に、住民の皆さまの懸念事項があがっていたが、

現在ある小中学校が消えてしまう地域で、いろんな問題で懸念がでてきているということだと思います。現在の統廃合後の学校施設も古くて存続が難しいということもあるかもしれませんが、築年が浅くてリノベーションすると別の施設に転用が可能などあると思うので、ある程度、統廃合が決まった段階で既存学校の将来の利用のされ方を考えていく地域の検討会を同時並行かやや遅れてスタートだと思うのですが、検討対象をこういう形で進めていきますと提案を市からされると、それぞれの地元の方もどう使っていこうかということが見えてきてわかりやすいのではないかと思います。以上です。

(議長 大桃委員)

ありがとうございました。この資料にも陵西学区から小学校がなくなるという深刻なご意見もありますが、増田委員からのご発言に対して事務局いかがでしょうか。

(事務局 今野学校教育課長)

そういうご意見をいただいております、教育委員会だけでなく、庁内の関係各課を集めて調整会議をして検討している段階でございます。

(議長 大桃委員)

三浦委員いかがでしょうか。

(三浦委員)

東北芸術工科大学の三浦です。2段階統合については現場の様子がわからないので、現場のことがわかる方の意見を聞いていただければと思います。統廃合については、メリット、デメリットの両面あって、両面を考えながら判断していくということなのですが、統合のメリットは財源とか質の問題が大きいのではないかと思います、そのあたりの状況については、試算とか提示されているのか教えていただきたいと思います。

一方で、学校がなくなるということで、地域のコミュニティの維持のご意見があると思いますが、地域づくりという意味では、各地域でこういった組織がこういった形で、最近ですと公民館がコミュニティセンターになって地域運営の拠点となっている例もあると思いますが、市としてどんな風に進めているのかあわせて伺えればと思います。

(学校教育課長)

試算については、検討中ですが、大きな考え方として、国の補助金を想定して

おりますが、統合する学校には補助金がある。古い学校を建替えることには補助金がない状況です。中学校1校の場合は補助金があるのですが、2校にした場合は、3校の内2校を統合した学校には補助金があるのですが、建替えした方には補助金がない、市の持ち出しが増えるという考え方になると思います。

(三浦委員)

その後の運営については試算されていますか。

(佐藤教育長)

統合した場合にスクールバス等の利用を考えると、今も陵西学区ではスクールバスを運用しておりますが、統合した場合にスクールバスの経費など、学校を維持していくための経費等を検討しているところであります。

コミュニティーづくりについては、各地区に公民館がありますが、柴橋地区は、コミュニティーセンター化を見据えて進められているところです。また、市の担当課にも各地域の担当職員が地域の方の相談をより密接に受け、いろんな対応をしている状況がございますし、地域づくりについても学校教育課が直接ではありませんが、担当課で対応しているところです。

(三浦委員)

ありがとうございます。財政負担、建設、その後の維持について検討ということは、数字を出されているということでしょうか。これからお示しされるということでしょうか。

(事務局 今野学校教育課長)

数字については、これからお示ししていきたいと思っております。

(三浦委員)

承知しました。

(議長 大桃委員)

三浦委員のご発言と関連しますが、統合後の校舎等の跡地の利活用ですが、学校の場合は、災害時の避難生活の拠点になる場合が多いですが、災害時の避難施設を含めてどのように統合後の跡地を考えておられるかお願いします。

(事務局 今野学校教育課長)

学校の跡地利用についても庁内調整会議で検討しているところですが、避難

所としては校舎がある限りにおいては、避難所として活用できるのかなと思います。コミュニティーセンターのような形になるのか、取り壊して違う施設にするのか検討しているところです。財政課で施設の個別施設計画を準備しておりますので、そちらで詳しくでるのかなと思います。

（議長 大桃委員）

検討結果はいつ頃でてくるのでしょうか。例えば、統廃合の対象地区のみなさまは、不安に思っていると思います。統廃合が決まった後にでてくるよりもお示しいただければ具体的に検討できるのではないかと思います。

（佐藤教育長）

学校の統廃合について、いろいろご意見をいただいております、このような有識者会議等を開いて検討しております。庁内の会議においても学校の施設だけでなく他の公共施設も老朽化してきておりますので、今後、どういう計画でいくのかを総合的に考えているところです。大桃委員がおっしゃられた通り、なるべく早い段階でお示しできればと思いますが、学校のことだけでなく、市全体の今後の方向性ということもありますので、そうした計画とあわせながら検討が進められていくという状況でございます。

（議長 大桃委員）

他にいかがでしょうか。

（増田委員）

少し夢物語のような部分がございますが、統合される学校すべてを維持するのは難しいような気がしますが、寒河江市に住んでいる小中学生全体として、他の場所、学区以外の自然環境、文化を学ぶことを考えると元あった学校を何かの拠点として、短期間でもいいのかもしれませんが学習会、キャンプをやるとかできれば、みんなで地域全体を学びましょうということが継続できるのではないかと思います。昔、小学校に通っていたときに、同じ学校に通って、あまり見る機会がなかったりしているので、それぞれの特徴をもっている地域、その場で学習できる機会を跡地利用で、地元の方とメニュー作りできればと思っております。ご検討いただければと思います。

（鈴木委員）

今の話を伺っていて、陵西学区から学校がなくなることについて、大きく2つの視点で考えました。1点目として、今の増田委員のお考えに賛成です。学校が

すべて補完していく形になるのかわかりませんが、学校を残したとき、災害時、臨時的に使われることもあると思うのですが、子どもたちの居場所や、社会のコミュニティの拠点となる、人が集い、活性化していくような場所になってほしいと思います。子どもが時期や場所をかえて活動していくこともあると思いますし、寒河江市の場合、コミュニティスクールにも早い段階から着手していて、軌道にのっている部分もあるので、社会の中のコミュニティの拠点として大人も集える学校を検討されていくと地域としてあっているのかなと思います。日常の中で、例えばそこに学校がなくなった地域、陵西学区を想定すると、文化財という点でも素敵な地域となっているので、学ぶ拠点としては大事な地域であり、学びの中でという、増田委員のお考えに賛成です。

もう1点は、事務局にも伺いたいのですが、陵東中に勤務していたとき、寒河江学園のお子さんがいらっしゃったと思います。三泉学区でも寒河江学園のお子さんを大切に育てているとっていて、陵東中学校に勤務しているときに、寒河江学園のお子さんが学校にいて、すべての子どもたちが育っていると思う場面がたくさんありました。そういった配慮が必要なお子さんはどの地域にもいると思うのですが、そういったお子さんがいることで、地域と子どもが育っていくよさを実感していたところです。

他にも寒陵スクールが以前からあって、今、不登校の問題が顕著化していますが、ここまで深刻化する前から、寒河江市は、学校だけではない場所で子どもが選択して教育を受けることができている。そこには学校の先生たちも出向いていくので、配慮が必要なお子さんともつながりながら対応することができています。それから、教育事務所に勤務している時に相談を受けたところとして、外国からいらっしゃる労働者の方々が寒河江市も増えてきており、お子さんが日本語を話せないまま中学校に入り、授業や高校入試に対応するのが難しいというものもありました。

寒河江学園さんのこと、全国的にも課題となっている不登校のこと、労働者の変化による外国籍のお子さんの増加などの背景も、寒河江市としての配慮事項になると思います。学校再編の時は、特別な支援を要するお子さんについても大事な視点となってくると思うのですが、陵西学区は学ぶのに豊かな地域なので、そういったお子さんを支援できる場所としても、ご検討されているのか、背景を伺いたいと思います。配慮の必要なお子さんへの支援体制という視点で教えていただければと思います。

(佐藤教育長)

寒河江学園のお子さんについてですが、私も中学校の教員をしておりまして、新規採用の時は陵東中でした。私も寒河江学園のお子さんの担任をしておりま

した。そのときも、そして今もそうですが、陵東中学校でも、小学校は三泉小ですが三泉小学校でも、いろんな面で配慮をしてくださっていますし、いろんな面での交流等も対応してくださっていると思います。説明会も小学校区ごとに行ってきたのですが、三泉小で行ったときには、寒河江学園の子どもさんへの配慮をしっかりとやってほしいというご意見をいただいておりますので、教育委員会としてもきちんと対応していきたいと思います。

2番目の不登校についてですが、全国的に増加傾向にあるということがございます。寒河江市もコロナ前は減少しつつあったのですが、また増加傾向にあるということで、不登校防止の研修会等をピンポイントで実施しています。去年は、小学校低学年の担任の先生たちに全員、年6回の予防研修を受けていただきまして、低学年の時期に学級のトラブルがあつたりしまするので、研修を行いました。その前は、中学校の不登校が増えたときに、陵東中、陵南中、陵西中の3校で相談をしまして、自主的に講師の先生をお願いして、全員参加して研修会等を行ってきました。寒陵スクールですが、昨年度から在籍しているお子さんが増えておりまして、昨年度末では20数名となっております。この子どもさんたちも寒陵スクールに週2回くらいきて、学校にも登校してなどという場合もあります。そうした対応もきちんとやっていかなければならないと思います。

3点目の日本語指導ですが、寒河江市でも外国籍のお子さんが増えてきております。陵東中学校では加配をいただき、日本語指導加配で専門の先生もおりますし、市としてもフォローできるように考えているところでございます。

(議長 大桃委員)

ありがとうございます。委員のみなさま他にいかがでしょうか。

(佐藤委員)

震災でユニセフ協会と一緒に大槌町、石巻市、仙台市などで、子どもの復興のまちづくりということで、未来の学校を考えてみようと思ったことがあるのですが、大槌町の場合、今回のケースと似ているのですが、被災してしまった小学校4校が統合して、小学校を作ったあとに、小中一貫を作った経過があります。今回、文科省の施設の予算の部分で、考えられる一番ノーマルな答えの出し方が今回の出し方かなと思うのですが、寒河江市にある資源、まちなかの資源、農村部の資源2つがあると考えたら、さきほどの鈴木委員のお話にもありましたが、可能性として農村部にある学校を小中一貫校として考えていくスタンスも成り立つのかなと、市全体として考えるとこれがバランス的にはいいのかなと思いますが、さきほどあった特別支援のお子さんの学校とかいろんなことの配慮が必要な部分とか様々に考えなければならぬことが多岐にわたるのかな

と思いますが、そういった中で、残し方、イリーガルな方法なのかもしれませんが、小中一貫校の検討も視野に入れてもいいのではないかなと思います。以上です。

（議長 大桃委員）

具体的に小中一貫校をどの地区にするとか、2校にするとか。

（佐藤委員）

数制的な部分でみると陵南中が大きく、陵東中、陵西中の統合の仕方の組み合わせをどうするかがあると思いますが、例えば、陵西中と陵西学区の小学校を統合して、大きな中学校と陵西学区に小さな小中学校の組み合わせのパターンも視野に入るのかなと思います。

（議長 大桃委員）

今の提案に対して事務局いかがでしょうか。

（佐藤教育長）

佐藤委員からご指摘ありましたようにあり方検討委員会でも義務教育学校について、どうだろうかということの検討はなされたところでした。今ありましたように陵西学区で児童生徒数が減少していくが、義務教育学校はどうかという議論も行われました。その議論の中では陵西学区の児童・生徒数が減っていくなかで、義務教育学校にしたときにも、中学校は各学年1クラスにしかならない規模になっていくということもあり、そうしたことを総合的に考えたときに中学校をどうしていくべきかということで議論が進んできた状況がございます。

（佐藤委員）

今の話はごもっともだと思います。私が冒頭でお話したのは、農村部の再生が市の政策として掲げられて成り立つ話かなと思ひまして、ここ10年の数字は出生数で確定していると思いますが、その後の地域づくり、今後の農村部がどういう風に変化していくのかは、市の方でテコ入れをする、新しい人たちが新しい農業の仕方、寒河江市のみなさんがコミュニティースクールとか、インクルーシブ教育とか、いろんなところでのマッチングの仕方、精神的にも身体的にも豊かな地域づくりが視野に入ってきて、そういう成り立ちの話となっております。

（議長 大桃委員）

他にいかがでしょうか。増田委員、三浦委員いかがでしょうか。

(増田委員)

1点質問です。県の教育委員会かもしれませんが、小中一貫の話がありました。山形の場合、中高一貫の議論はどうなっているのか、寒河江市周辺でどのような動きがあるのかお知らせいただければと思います。

(佐藤教育長)

中高一貫校については、県では基本的には村山、置賜、庄内、最上の4つの地区に1校ずつ設置するのが基本方針だと思います。最初に東根市に東桜学館が設置されて、次に鶴岡に設置される進み方なのかなと思います。鈴木委員が詳しいと思いますので。

(鈴木委員)

県の高校教育課で進めておりまして、東桜学館が8年目になりました。寒河江市からも受験している子さんがいらっしゃるという情報がございまして、村山管内だけでなく、他の地域からも住所を移動して通っているお子さんが一定数いると伺っております。令和6年度から致道館中学校・高等学校が鶴岡で開校予定です。東桜学館は県内初の併設型中高一貫校です。致道館中学校・高等学校も併設型中高一貫校で、それぞれ既存の建物を使いながら、分離した状態で中高一貫を進めていくということで、連携の形態も変わって、2つ目の中高一貫校が動いている現状です。その後については今後検討していくことになると思います。

(増田委員)

長期的には寒河江の小中の生徒さんの通学、進学傾向にも少しは影響があるということですね。状況はわかりました。ありがとうございます。

(議長 大桃委員)

他にいかがでしょうか。保育園や放課後児童クラブが統合後どうなるかという項目もありますが、小学校にあがったら多くの親御さんは働きに出る状況にあります。放課後児童クラブは教育的に見ても大事だと思いますが、統合後どう考えているのかお聞かせください。

(事務局 今野学校教育課長)

その点に関しても、学校の統合が決まらなると保育園や放課後児童クラブも決められないという話がございまして、同時並行して進むのかなと思いますが、まだ方向性が決まっております。

(議長 大桃委員)

そうすると大きな議論は小学校を2段階に統合することについて、もう1つは、中学校を1校にするのか2校にするのか大きな議論だと思います。そこがはっきり固まらないといろんなことが進めない状況だと思います。小学校の2段階について、議論をしましたが、複式学級をかなり長い期間やってきたわけですよ。そういったこともあり、急に統廃合をする必要があるのかな、1段階で小学校が統合されれば、子どもや親の負担は軽減されるという考えもありますので、その点についてどのようにお考えかお聞かせください。

(佐藤教育長)

小学校の2段階での統合と中学校の統合も関係するのですが、説明会でお子さんや保護者の負担も大きいというご意見が多く出ています。何年に統合するかによって学年は違ってくるのですが、例えば、小学校の6年生のときに、統合したお子さんが中学校に入るときには、今の計画でいくと統合中学校は出来ていないので、中学校に入るときには、例えば、陵西中に入り、そのお子さんが2年生になるときに、今度は中学校の統合を経験する。同じお子さんが小学校でも中学校でも統合を経験するのはいろんなストレス、負担が大きいのではないかと。保護者の方も含めた統合委員会等を作ってどういう学校運営とか、具体的に言うとPTAの組織運営をどうするかなど、いろいろなことがございますので、そういった点でここは考え直すべきではないかという意見を強くいただいております。そうした点については、我々も十分検討している状況です。

(議長 大桃委員)

中学校を1校にすることについて、財政的な面でわかりやすい説明がありました。他にどのようなメリットやどんな問題があるのか教えてください。

(佐藤教育長)

中学校の統合については、計画では1校の統合案としておりますが、1校ではなくて2校にすべきといったご意見もいただいております。それぞれのメリット、課題等もあると思いますが、1校にした場合は、例えば、教員の数も増えますので、いろんな面から子どもたちを見ることが出来ます。人数が増えると目が届かなくなるという心配もありますが、クラスの人数は中規模の学校でも同じです。規模が大きくなれば、各教科の先生方も5、6人いて、その教員で授業の内容などを研修して、より良い授業が行える。そういった対応等もしやすいと思います。それが学年3クラスくらいの学校になると各教科の教員が1、2人となりますので、そうした面で校内での各教科の研修という点ではマイナス面がで

てくるのかなと思います。1校にすると生徒数が多くなりますので、様々な活動の中での役割分担は少なくなってきますし、1校にした場合は通学距離が遠くなるお子さんもいるので、スクールバスでの登下校を考えていかなければならないということもあります。

2校にした場合は、中規模校となっていくわけですが、資料の生徒数を見ると陵南中は500人くらいを維持しますが、陵東中と陵西中を統合した学校の場合には、生徒の減少が大きくなって、令和17年では、300人ちょっととなり、その後、300人を下回ることが予想されるということもあります。そんなに遠くない将来に再度1つに統合とかを検討をせざるを得ないことになるかもしれないなど、あり方検討委員会でも検討されたところですが、あり方検討委員会では、そうした不安であったり、当初の令和10年ですと980人くらいになりますので、多過ぎるのではないかなど、それぞれ、いい点も課題もありまして、あり方検討委員会の答申では、1校案、2校案の両論併記となりました。ただ、あり方検討委員会の答申では、将来的に人数が減っていくということから、1校に統合するという選択もあり得るのではないかと書かれています。教育委員会ではいろんな面から検討しまして、昨年3月の計画では中学校は1校案としてお示しさせていただいたところですが、

(議長 大桃委員)

ありがとうございました。佐藤教育長の説明を踏まえ、1校案、2校案いかがでしょうか。鈴木委員いかがでしょうか。

(鈴木委員)

最初に質問をさせていただきます。中学校が1校になった場合、教職員数はどれくらいになると想定されていますか。学校経営の視点からイメージさせていただきたいと思ひまして。子どもたちの数も少なくなっていくとは思いますが、令和10年はどれくらい的人数が想定されますか。可能な範囲で教えてください。

(佐藤教育長)

統合した場合の教職員数ですが、人数的には各教科5から6人程度になるかと思ひます。かつて河北中学校が960人くらいのときは、教職員は50人くらいでした。

(鈴木委員)

それぞれ寒河江市内には3校の中学校があるわけですが、学校によってその教科の先生に偏りがあって、例えば、その教科の先生が常にいることが難しいと

いう状況も学校規模によってはあると思います。1校になった場合、すべての教科において免許をもった先生がいるという形、それから各教科を担当する先生が複数名いてチームで運営していくことができるということは、今後の授業を向上させていくにはメリットで、きちんと子どもたちに提供できる教育が担保できるなと思い、先生方の資質能力を伸ばしていくという点でもメリットがあると思って伺っているところです。教員の数が多くなっていったときに年代のバランスが崩れたりすることもあるかもしれませんが、共通理解を図って、様々な配慮が必要な子どもたちを支援していく難しさについても、大きな組織の中で小さいチームが機能していくことができれば問題ないと思います。今、様々な配慮が必要なお子さんたちにきちんと配慮して、学校として組織で支援していこうとなったときに、人数が多くなることによる課題もあると思っていたのですが、その両面から検討されているんだなと思ってお聞きしました。状況を教えていただきありがとうございます。

(議長 大桃委員)

1校、2校案については、いかがでしょうか。

(鈴木委員)

資料を読ませていただき、いろいろな方々の想いがあって、その中で何を大事にしていくのかを最終的に決めていかないといけないと思います。様々、懸念事項はつきないと思いますが、1校か2校かとなったときに、1校にしたとき、市全体としてどのように子どもたちを育成していくか、将来の寒河江の発展を考えたときにこういうメリットがより生まれる、ということを中心に考えることができれば、1校にすることへの懸念事項があっても統合は進むのかなと思います。現実的には、懸念事項としていろんなご意見ありましたよね。子どもたちの関係性、通学など様々なレベルにおいて市民の方々がお考えになっている部分があって、そこについて、不安を払拭できない、デメリットが大きいということになれば1校案を進めることに無理もでてくるのかなと思って考えていました。とても難しい問題だと思っています。私は、陵東中、陵南中に勤務経験があります。私の地元には、1校しか中学校がなかったので、とても広い地域からいろいろなお子さんが通ってきていました。1つの中学校ということで、すべてのお子さんに関わるきっかけもあるので、町に中学校が1つという環境で育つことにマイナスのイメージをもっていません。私は、他の市にも転校しており、そこでは市の北と南に2つの中学校があり、寒河江市と似ているのかわかりませんが、それぞれの地域性が同じ市内でも強くて、地域のつくりも違っているので、それぞれの存在意義ではないが、切磋琢磨しあえる環境にあったと感じてい

ます。寒河江市内の中学校は、どの学校もいい意味でプライドがあって、それぞれの学校に強みがあり、これは私たちが1番だという感覚を、それぞれの学校の生徒さんがもっていたので、学校が複数あることのメリットだと思っていました。ただ、1校を経験したことがないわけで、1校になったときに、それぞれの地域から通学してくるお子さんが校内で化学反応をおこして、さらに素晴らしいことになっていくのかは未知の部分なので、どちらの案にした場合にもメリットがあると思います。途中の段階で議長にお返ししてよろしいですか。

（議長 大桃委員）

ありがとうございます。難しい問題だと思いますが、佐藤委員いかがでしょうか。

（佐藤委員）

20年前にアメリカにホームステイしたときに、中国から校長先生がいらっしゃっていて、その学校は驚いたことに1万人の学校でした。1万人の子どもたちがどんな風に生活しているのか聞いたのですが、設備も大学並みで、いろんなところでファシリティという点では、優れた学校だと感じました。ここの提案の1校ということでは、近くで言えば、高畠町の中学校の前もときどき前を通るのですが、ヘリポートやグラウンドがきれいなど、そういった意味の魅力はあるのかなと思います。そういった点で、この1校案はありなのかなと思います。ただ、もう一方で地域性ということで、長井市の地域に入って話を伺いましたが、ある地区は、最上川が流れているが、東側と西側と一緒に学校に通っている、その学校は、川をはさんでいるが、いまはバスですが、長年培ってきた関係性とかがあって、その地域の学校名が融和する学校名、小学校の名前をつけている。それを明治時代からやってきたという話だったので、いろんな地域の在り方があって、歴史があって、それをどうしていくかという思いがあって、地域の人たちが選んで決められればベストですが、地域の再編とも縁があるし、再編したら再編したでの寒河江の一体感が生まれるでしょうし、もう一方で寒河江高校と寒河江工業高校の2校あって、寒河江市の規模だったら中学校が複数あってもいいのではないかと思う気もするのですが、そこは今後の地域づくりの大きなポイントだと思います。私も現時点ではどちらとも言えない状況です。

（議長 大桃委員）

増田委員いかがでしょうか。中学校1校案、2校案についていかがでしょうか。

(増田委員)

なかなか結論は難しいですが、1校で充実した設備をもつということ、やや分散して相互の競い合いをいれながら頑張ってもらい、両方ありうるので、そこについてはうまい選択が市民のみなさんから出てくることを期待したいと思います。

1点、もっと早く確認すればよかったのですが、学区別の資料、推計がでているのですが、学区の線引きは変えないと読めばよろしいでしょうか。

(佐藤教育長)

学区の線引きについては、あり方検討委員会でも議論になったところでした。いろいろと議論されて、今の学校を分けて新たな学区にすることはしないという検討委員会の答申でありましたので、その答申を踏まえて、小学校区はそのまま統合する場合は、小学校区をあわせての学区の人数になっております。

(増田委員)

伝統的にそこで線引きされているので、ご兄弟で変わってしまうとか、ご両親と違うところに振り分けてしまうなどいろいろあるので、それを変えないのも1つの考えだと思いますが、少し選択の幅をもって、学校ごとに特徴があるとすると行きたい方に行くのもあると思いますが、小中学校の段階だとなかなか難しいのかなと思います。場合によっては理科や社会の専門の中でこちらの学校で生物を一生懸命にやっている、こちらの学校では物理とかやるので、どちらでも学ぶこともありますよとやれなくもないのかなと思います。地域学習で言うと、歴史の部分については、学校の相互のやり取りもできるのかなと思いました。ただ、1校か2校か、それがいつの段階でとは、決断がつけられない状況です。

(議長 大桃委員)

三浦委員いかがでしょうか。

(三浦委員)

実際の学校の経営とか教育内容とかわからないので、判断しかねるわけですが、人口4万で1校か2校かは迷うところがあると思います。前半の地域のコミュニティーとの関りで言うと、小学校の教育のカリキュラムの中でも地域学習に関係する内容はたくさん出てくると思います。それに比べて中学校はそういう場面が比較的減ってくるのかな、中学校3年間ということになってくるので、コミュニティーという部分よりも、学校教育としてどうあるべきか、という点に重点が移ってくるのかなと思います。小学校の統廃合の問題もありましたが、廃

校になった場合、もう少し利用できないかということもあったわけですが、その視点も必要なのと、学校が統廃合されても小学校のカリキュラム的には地域学習をもう少し強化していくとか、中学校も同じくカリキュラム上での地域との関連性みたいなものをしっかり寒河江市として強化していくとか、地域をどう位置付けていくのか、鈴木委員に聞いた方がいいのかなと思います。カリキュラム上の配慮がどこまでできるのか検討の価値があるのかなと思います。中学校は、小学校に比べると中学校は地域の関連性とかカリキュラムの配慮は薄まってこざるを得ないのかなという気はしていました。そういう意味で1校はあり得るのではないかと思いました。

(議長 大桃委員)

ありがとうございます。

(鈴木委員)

三浦委員の話を伺いながら、県の第6次山形県教育振興計画(後期計画)の「地域をつくる人」に関連したところで考えていたのですが、第6次山形県教育振興計画(前期計画)では「地域とつながる人」だったのが、後期計画では「地域をつくる人」ということで、より地域の未来を作っていくことが大切にされました。小学校は自分たちの学区、寒河江の中でも陵東、陵南、陵西学区の範囲内で総合的な学習を行っている場合が多いと思います。改めて思い出すと、陵東中で学習指導部長をしていたときに、総合的な学習をどうしようかと教務主任の先生と話をし、小学校から中学校に発達段階があがったので、もう少し広い視野で、寒河江市全体だけでなく、山形県、日本の中での、という視野で総合的な学習の時間を進めていくことが大事だと考えていました。地域の未来を作っていく人材を育む、そして、郷土愛を育む。外に目を向けつつ、自分が生まれ育った地域も大事にすることが、キャリア教育でも大事であるという、発達段階的なことを考えると、中学校では学区を越えて寒河江市全体を見てはいますが、小学校の延長で留まっていると感じることもありました。寒河江の中でも、より自分たちの身近な地域に住んでいる大人の方々や施設との関わりが強かったなと思います。1校にした場合のメリットのことですが、寒河江は広いので、それぞれの資源があることを考えると、自分たちが捉えていた地域の範囲が拡大して行って、今までよりも広い範囲で寒河江を捉えて、今までの範囲をこえた大人の方々に関わることが可能になり、寒河江市全体の未来をより考えるようになることが、今後の寒河江市の発展に大きく寄与するのではないかと思います。もちろん2校のメリットもありますが、中学校の発達段階とか、中学生は社会参加していく年齢だということを考えたときに、1校にした場合の教育活動の充実ということが

可能性としてもものすごくあって、たとえ懸念事項があったとしても、子どもたちの学ぶ環境としては、大きな魅力になるのではないかと思って、興味深くご意見を伺っていました。

（議長 大桃委員）

ありがとうございます。1校にした場合、寒河江市全体のことを考えることができる子どもを育てることができる、未来を担っていく子どもたちを育ていくことができるということがよく分かりました。2校にした場合、2つの中学校で子どもの数のバランスがとれないということがありますが、その場合でも学区を変えないという方針でしょうか。そのままと同じような問題が起こってくると思いますが、事務局いかがでしょうか。

（佐藤教育長）

学区編成替えというのは、とても難しい問題であると思います。説明会等でもその辺はいかがでしょうかとのご意見を伺ったこともありますが、学区編成替えもありではないかという方もいらっしゃいますが、学区編成替えは歴史的な経過もありますし、子どもたちの心情とかいろいろなことを考えると、編成替えは避けた方がよいのではないかというご意見も多くありました。難しい問題だと感じています。

（議長 大桃委員）

中学校の1校案、2校案については、貴重なご意見をいただくことができました。小学校の2段階について、もう少し議論を深めることができればと思いますが、2段階がいいのか、一度に統合した方がいいのか、難しい問題であります。この辺についてもう少し意見を頂戴したいと思うのですが、佐藤委員いかがでしょうか。

（佐藤委員）

さきほど大槌町の事例を紹介しましたが、2段階は2段階なりに良さがあるのかなと思います。大槌町は、緊急的に津波災害があって、町内の仮設住宅のあり方、仮設校舎の設置の仕方も含めて、様々議論の中で決まっていたことと思いますが、そうした中で、期間として6年間でとるのはポイントとして妥当ではないかと思います。その後、中学校の移転が決まって、新校舎が建って、建物を除却する期間も含めて、期間のとり方も適切だと思います。ただ、配慮が必要なのが通学で、共働き世帯が増えている中で、緊急時は距離があると迎えにくくとか時間の取り方が困難になったりするときはあるが、そういったところ

での小学校への配慮、統合した小学校の通学の仕方、家までバスがきて乗るとかではなく、元の小学校から乗るとか、コミュニティーの場づくり、放課後の預かりの単位でも、もとの小学校を利活用するのか、統合した学校の中で預かってもらうのか、考える機会が十分とられているので、適切でないかと思えます。

(議長 大桃委員)

三浦委員いかがでしょうか。小学校の統廃合について、2段階という意見がでありますが、一度に統合した方がいいというご意見が地域から出ておりますが、いかがでしょうか。

(三浦委員)

現場の様子が変わりかねる部分があるので、どちらがいいかは申し上げにくいところです。

(議長 大桃委員)

増田委員いかがでしょうか。

(増田委員)

私も同じですが、資料3-2に時間的なスケジュール表が載っておりますが、令和12、13年くらいのところに新校舎を検討する四角いボックスがあって、寒河江市全体で学校が動いている時期があるように見えるのですが、事務処理や建設、設計、いろんなことが同時期に動くように見えるので、市の人員、計画を作られる方、発注の仕方を考えると2段階で準備を分けるのもあるのかなと思えます。点線で囲まれた部分がこの通り進むのか、将来検討が残っている気がしますが、以上です。

(議長 大桃委員)

小学校について、資料には急傾斜や浸水想定区域に立地している学校は安全なのかとありますが、このあたりはどうでしょうか。

(佐藤教育長)

そうしたところも再度、検討しているところでございます。2段階統合だけでなく、1段階にしても、5校を1校にするとなりますと陵西学区に小学校がなくなっていくことにもなりますので、さきほど委員の皆さまより小学校は地域とのつながりを大事にしていくというご意見もありましたので、また、説明会でも保護者の方や地域のみなさまからも陵西学区に1校を残して欲しいという強い

ご要望、ご希望がございましたので、そうしたことを踏まえて検討を進めているところです。

(議長 大桃委員)

その他、何かございますか。今までの議論と関係ないことでも構いませんが、いかがでしょうか。今後の進め方についていかがでしょうか。鈴木委員いかがでしょうか。

(鈴木委員)

少し考えさせてください。

(増田委員)

パブリックコメントへの対応がありましたが、これは市民の方にはどう伝わっていると考えればよろしいですか。ホームページ等で公開されているとは伺ったのですが、ご意見出された方に説明会とかはあるのでしょうか。

(教育長)

今日の資料のパブリックコメントについてでしょうか、今後のパブリックコメントでしょうか。

(増田委員)

今日の資料に出されたパブリックコメントはすでに報告されていると思いますが、これ以降どう進んでいくのか。

(佐藤教育長)

今後の進め方については、地域説明会等でのご意見を踏まえ、改定の案を検討しておりまして、本日いただきました貴重なご意見も参考に考えていきます。そして検討した素案を8月にお示しして、それについてご意見をいただき、9月に修正案をお示しする予定としております。その後、パブリックコメントを行い、パブリックコメントへの対応については、前回と同じようにホームページ上でお答えし、地域での説明会も計画している状況です。

(議長 大桃委員)

他にいかがでしょうか。

(佐藤委員)

災害対応という話がでていたのですが、人口政策の視点に立ったときに、昨日、ある方とお話する機会があったのですが、福島県では原子力災害により、人口移動が発生した。そうした中で、受け皿となるような場所を探していた。最終的にはその地域が気に入って定着したケースがあって、そうしたときにこれだけ災害が多い日本において、寒河江市がそういった受け皿の視点としての立ち位置もあるのかなと思います。岩手県の住田町は、仮設住宅を事前に設計して、陸前高田の人たちに提供したりした、そうした技術力を持った土地柄なのかなと思います。そう言ったことも視野に入れながら、さきほどは、自分たちの避難場所という考え方でしたが、受け皿としての避難場所、食べ物もあるので、寒河江のポテンシャルを高めていく、それが人口の定着につながる、そうした視点で子どもたちの教育の場がある、そういった視点もあるとすごくいいのかなと私自身感じたところです。

(鈴木委員)

今日の議論全体にかかる部分ですが、パブリックコメントで見せていただいた50件のご意見についても拝見したわけですが、懸念事項やこうあってほしいなど、様々な方々の願いがここにはつまっているなと思います。そこにしっかり耳を傾けていくことは大事だし、今後の寒河江の未来につながる大事な審議だと思って拝見しました。みなさんと意見を交わす中で感じたことは、例えば、統合を複数回経験するお子さんがこの先でてくるかもしれないとなったときに、子どもにとっても、保護者にとっても負担があるということは絶対的なことだと思います。その一方で、それを経験できるからこそたくましく成長できることはないのかなとも思いました。2年前に県内の廃校になる小学校に伺ったときに、子どもたちが自分たちの学校がなくなる、地域の方が大事にされてきた学校がなくなって、子どもたちが別の大きな小学校に通っていくとなったときに、不安やデメリット、地域としてコミュニティーが衰退するのではないかといったことが出てくるわけですが、そのとき見た子どもさんたちの姿は、私たち大人にすごく勇気を与えてくれました。自分たちが歴史ある学校を締めくくる立場になり、今後、新しい環境に向かっていくとなったときに、この学校の歴史を最後の2年間くらいだったと思いますが、大人と一緒に自分たちの地域を振り返って、その歴史を子どもたちが参加する形で刻んで、その地域に対する気持ちが高まっていました。大きい学校に通っていくことになり、子どもたちにとっては範囲が広がっていくわけですが、学校がなくなって、新しいところに統合することを経験した子どもたちは、より郷土を大事にしていました。マイナス面だけではなく、子どもたちは、これからどんな地域で、どんな風に生きていくのか

わかりませんが、資質能力を醸成できる絶好の機会であることを私たちは忘れてはいけないと思います。ただ、そうした時に、子どもたちの不安を払拭できるようにカリキュラムを工夫し、自分たちで次のステップに進んでいけるようにすることが教育としては大事だと思います。統合を小学校でも経験して、中学校でも経験するお子さんもでてくるかもしれないとありましたが、今まで関わってきた中学生からはたくましさを感じます。私たちが配慮しなければならないことはたくさんありますが、彼らが本気になったときは、ものすごい力を発揮します。他の人たちが経験したことがない経験をするのかもしれないと思いますが、地域づくり、これからの未来の社会を考えていくときに欠かせない力を育むチャンスであることを考えると、1回の統合も2回の統合もどちらも想定されますが、2回の統合は負担もあるけれども、そこを教育現場で把握して、必要な支援を行いながら教育活動を充実させることで、子どもたちの力をより育む可能性もあると思います。地域の人や子どもたちの気持ちに無理のないスケジュールで、どちらの場合でも、教育活動の充実や子どもたちの力を育むことはできると思いますので、1番は子どもたちにとって負担がない形で、自分の学校がなくなるにしても、大切にできるようなスケジュールで統合を考えてほしいと思います。

(議長 大桃委員)

ありがとうございました。学校は、地域住民にとって身近な公共施設であり、地域の核となる施設です。学校の統廃合は地域住民の要望を聞きながら進めるべきだと思います。そういう意味では、あり方検討委員会を設置して、整備計画を立て、地域説明会を行い、その意見をもとに再検討の外部有識者会議を立ち上げた進め方はいいのではないかと思います。今日は、委員の皆さまより様々な貴重なご意見をいただきました。こういった意見をもとに、よりよい見直しを行っていただければと思います。委員のみなさんありがとうございました。残りの時間がわずかとなりましたので、議長の責を解かせていただき、進行を事務局にお願いしたいと思います。

(事務局 千葉補佐)

ありがとうございます。事務連絡が1点ございます。第2回の会議については、8月8日(火)の予定となっております。準備ができましたら改めてお知らせいたします。本日の議事録につきましては、委員のみなさまよりご確認いただいた後、市のホームページにて公開させていただく予定でございます。以上で終了いたします。